クラレ CSRレポート2012

Corporate Social Responsibility Report

kuraray

Top Message

昨年度は、3月11日の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故等、未曽有の事態に見舞われました。あらためて、震災で亡くなられた方のご冥福をお祈り申し上げますとともに、いまなお避難生活を余儀なくされている方々に心からお見舞い申し上げます。

さて、2012年度は3ヵ年の新中期経営計画「GS-Ⅲ」がスタートいたしました。前中期経営計画「GS-Twins」(2009年度～2011年度)では、前半はリーマン・ショックからの収益構造の改善、後半は新事業の創出・拡大とコア事業の世界戦略に重点的に取り組み、「長期企業ビジョン」で示した「世界に存在感を示すスペシャリティ化学企業」の実現に挑戦できる体制を整えました。「GS-Ⅲ」は、この「長期企業ビジョン」の下、2018年近傍での売上高1兆円を見通せる計画とすること、クラレグループの新たな成長を可能とする事業基盤を構築すること、世界的視野に立ったすぐれた経営基盤を実現することの3つの基本方針を掲げて策定し、最終年度の2014年度において売上高5,500億円、営業利益850億円をめざします。

CSRの精神

企業として世界に存在感を示し、持続的成長をめざす上で、事業活動を通じて収益を上げていくことは当然必要ですが、同時に事業そのものの質がすぐれていること、そのために経営の質を高めていくことが重要になると考えます。クラレは、創業者大原孫三郎の「社会から得た財をすべて社会へ還元する」という信念や、2代目社長大原總一郎の「企業が得るべき利潤は『技術革新による利潤、社会的、国民経済的貢献に対する対価としての利潤』に限る」という思想を受け継ぎ、「世のため人のため、他人(ひと)のやれないことをやる」という企業文化を育んできました。CSRという言葉が耳慣れない時代に企業の社会的な責任に対する明確な考えを有した創業者を持つクラレには、その使命感が脈々と流れています。CSRの真の意味は、単なる収益力を拡大することではなく、社会の発展に向けて、事業の質、経営の質を高めるということだと思います。

「GS-Ⅲ」では、技術革新、地域拡大、外部資源活用、グローバル経営基盤強化、環境対応の5つの経営戦略を掲げ、その中で、CSRマネジメントを強化します。具体的には、グローバルなリスクマネジメントシステムの構築、安全マネジメントのさらなる向上、倫理・コンプライアンスプログラムの活性化、品質マネジメントの整備を推進していきます。環境対応では、地球環境の維持・改善に貢献する製品の低環境負荷での提供をめざします。当社がめざすべき環境指標として、「環境効率」(環境負荷あたりの売上高)を取り上げ、2020年度の到達目標を定めた「環境中期計画」を策定、実行していきます。この計画達成に向けた諸施策の実施を通じ、地球温暖化対応、化学物質排出管理、資源の有効利用などに取り組んでいきます。

企業としての挑戦と責任

クラレは1926年、レーヨンの企業化を目的に設立されました。1950年には世界で初めて合成繊維ビニロンの工業化に成功。その後、高分子化学・合成化学の独自技術をベースに、ポバール、〈エバール〉、イソプレンをはじめ高機能樹脂、化学品分野で社会に有用な製品の開発、事業化に挑戦し続けてきました。

一方、創業者大原孫三郎、2代目社長大原總一郎は、事業の拡大のみならず、大原美術館や倉敷中央病院、石井記念愛染園、労働科学研究所などの社会事業の設立、運営にも力を注ぎました。これらの施設や機関は、いまなお、社会への貢献を続けています。クラレは、これらの事業への協力・支援を継続するとともに、少年少女化学教室や知的障害者のための作業所、「ランドセルは海を越えて」等の企業として実施できる活動を通して、社会的な課題に取り組んでいます。

CSRの原点

クラレは創業の精神を受け継いだ「個人の尊重」、「同心協力」、「価値の創造」を企業理念とし、「私たちクラレグループは、独創性の高い技術で産業の新領域を開拓し、自然環境と生活環境の向上に寄与します。」という企業ミッションを掲げ、果たすべき社会的責任の原点としています。社会から預かった資源を独創性のある技術によって付加価値を高めて社会に還元し、さらなる研究開発、設備投資を通じ持続的な企業の成長を実現してまいります。昨夏以降の欧州政府債務危機を背景とした世界的景気減速、国内の政治的な混乱等、取り巻く環境が困難な状況の中にあっても、クラレグループの一人ひとりがひるむことなく、英知を結集して「世のため人のため、他人(ひと)のやれないこと」に挑戦をしていきたいと考えます。

株式会社クラレ 代表取締役社長

伊藤文大

クラレ会社概要

社名	株式会社クラレ
代表取締役社長	伊藤文大
設立	1926年6月
資本金	890億円(2012年3月末現在)
連結社員数	6,776名(2012年3月末現在)

本社	東京・大阪
事業所・研究所	倉敷、西条、岡山、新潟、鹿島、つくば
グループ会社	連結子会社31社・ 持分法適用会社1社(2012年3月末時点)
海外拠点	米国、ドイツ、ベルギー、中国、 シンガポール、インド、ブラジル

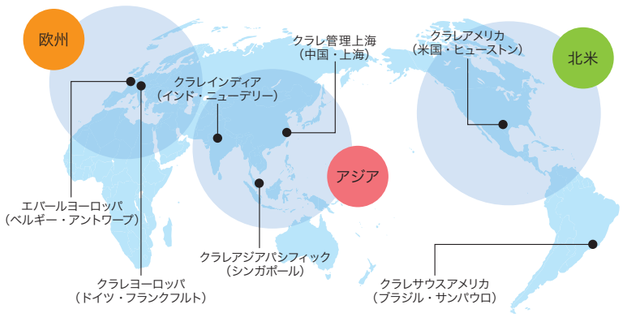
● 事業概要

クラレは1926年に化学繊維レーヨンの企業化を目的として岡山県倉敷市に誕生。以来、独自の技術力で、世の中になかった製品を生み出してきました。国産技術による初の合成繊維ビニロンを世界に先駆けて工業化したのをはじめ、ビニロンの原料樹脂であるポバール樹脂、液晶ディスプレイに欠かせない光学用ポバールフィルム、高いガスバリア性を誇る〈エバール〉、世界唯一の合成法から生まれるイソプレンケミカル製品群などを事業化。また天然皮革の構造を再現した人工皮革〈クラリーノ〉、面ファスナー〈マジックテープ〉など、皆さまにおなじみの製品も展開しています。

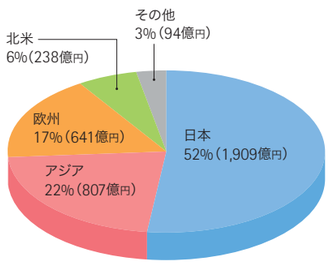
● 海外での事業拠点

クラレグループの活動領域は、海外17の国・地域、43拠点へと拡大し、「適地生産、適地販売」の方針の下、独創的な技術を駆使した海外事業を展開しています。

主な拠点

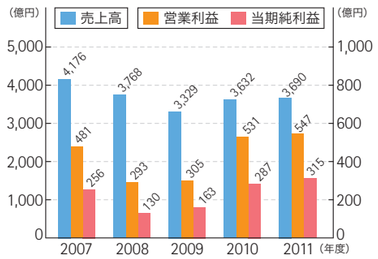


市場別の売上構成比(2011年度)

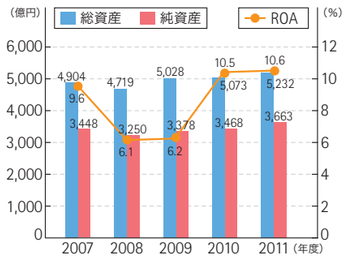


● 2011年度クラレグループ財務状況

連結業績推移



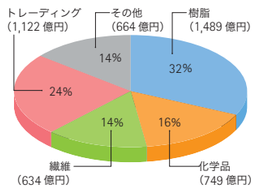
連結総資産・純資産・ROA※の推移



※ROA：総資産営業利益率

連結事業別売上構成比※

(2011年度)



※売上高には「外部顧客への売上高」および「セグメント間の内部売上高または振替高」が含まれています。調整額968億円は含まれていません。

編集方針

● 報告書の対象期間

2011年4月1日～ 2012年3月31日
(一部、対象期間以前、もしくは以後の活動内容も含まれます)

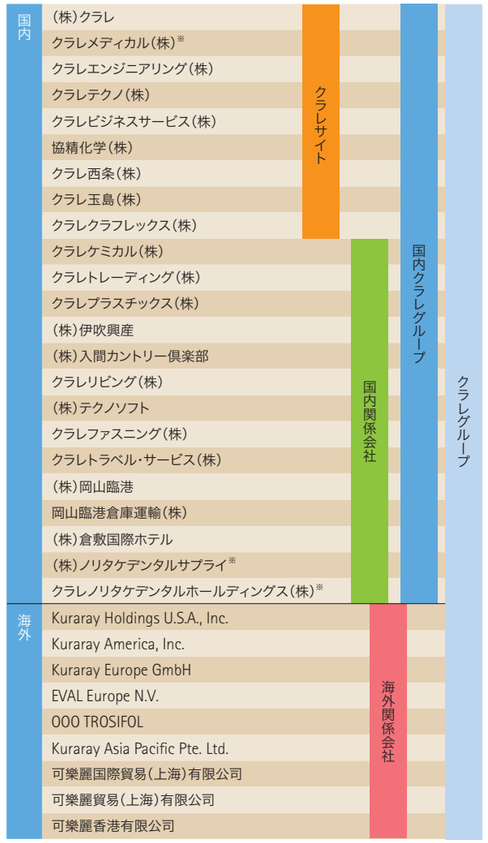
● 参考にしたガイドライン

GRI「サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン第3版」
環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」

● 報告書の対象範囲

安全・環境面…(株)クラレと国内関係会社を中心に、一部海外関係会社を含む
社会面…(株)クラレを中心に、各テーマで取り組み状況に応じて関係会社の一部を含む
経済面…(株)クラレと連結対象子会社および持分法適用会社(計33社)

● クラレグループ(連結子会社)



※クラレメディカル(株)、(株)ノリタケデンタルサプライおよびクラレノリタケデンタルホールディングス(株)は2012年4月1日をもって統合し、クラレノリタケデンタル(株)となりました。

本報告書の中の〈 〉で示すものはクラレグループの商標です。

目 次

トップメッセージ …… 1-2
クラレ会社概要 …… 3
編集方針 …… 4

マネジメント報告

CSRマネジメント …… 5-8
コーポレート・ガバナンス …… 5-6
CSR推進体制 …… 6
リスク管理 …… 6
コンプライアンス …… 7
コミュニケーション …… 8

安全報告

安全への取り組み …… 9-12
労働安全・保安防災に関する理念・基本方針 …… 9
安全マネジメント …… 9
労働安全 …… 10
保安防災 …… 10-11
物流安全 …… 11
製品安全 …… 11-12

環境報告

環境への取り組み …… 13-18
環境マネジメント …… 13
地球温暖化防止 …… 14-15
化学物質の排出管理 …… 15
廃棄物の有効利用 …… 15-16
水資源の有効利用 …… 16
事業活動のマテリアルフロー …… 17
環境会計 …… 17
環境データ集 …… 18

社会性報告

社会との取り組み …… 19-22
社会貢献活動 …… 19-21
地域社会との対話 …… 21
CSR調達 …… 22
職場での取り組み …… 23-26
社員に関する基本情報 …… 23
多様性とワーク・ライフ・バランス …… 24
人材育成・評価 …… 25-26
労働衛生 …… 26
労働組合との関係 …… 26

コラム
創造への挑戦
～大原美術館、引き継がれる使命～ …… 27-28
クラレグループの製品 …… 29-30

Management

CSRマネジメント

クラレは一人ひとりの個人を尊重し、独創的な技術力によって人々のくらしに役立つ素材を生み出し、社会への貢献という価値を追求することを企業理念としています。そして、クラレは、社会から預かった資源を独創性のある技術によって付加価値を高めて社会にお返しすることを事業の目的としています。株主、取引先、消費者、地域住民、社員を含む社会のすべてのステークホルダーの利害を尊重し、この目的の達成に対して、どのように取り組むかが、企業の社会的責任として重要であると考えています。

企業理念

個人の尊重
同心協力
価値の創造

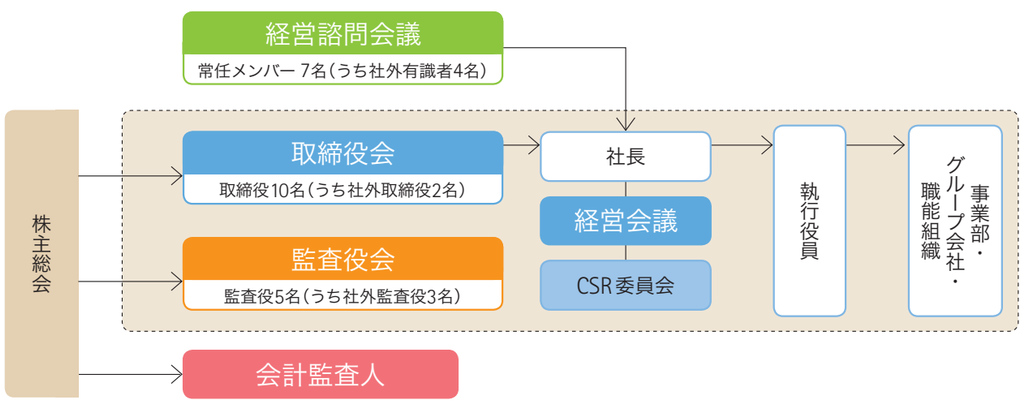
企業ミッション

私たちクラレグループは、
独創性の高い技術で産業の新領域を開拓し、
自然環境と生活環境の向上に寄与します。

コーポレート・ガバナンス

クラレは株主をはじめとする社会の多様なステークホルダーとの適切な関係を維持するため、コーポレート・ガバナンスは、企業としての業績向上と持続的な発展に寄与するだけでなく、企業の社会的責任を果たす上でも重要と考えています。

クラレは2003年度に社外監査役の増員による監査役会の強化、経営諮問会議の設置、取締役定員の削減と任期短縮、執行役員制度の導入による監督と執行の分離などの改革を実行しました。2008年度には、社外取締役の選任による、さらなるコーポレート・ガバナンスの整備を図りました。



- 取締役会は社外取締役2名を含む10名で構成されており、経営上の重要な意思決定を行うとともに、内部統制の整備の基本方針の下に、業務執行の監視・監督に当たっています。
- 経営に関する監督責任と執行責任を分離するため執行役員制度を導入しており、取締役会で選任され、執行権限を移譲された取締役兼務者を含む執行役員がカンパニー、事業部、子会社および主要職能組織の長の職位に就いて、業務執行と業績に対する責任を負っています。
- 監査役会は社外監査役3名を含む5名で構成されています。監査役は取締役会などの重要な会議に出席するほか、業務執行状況の聴取、グループの事業拠点の往査などを通じて、取締役の職務の執行状況を監査しています。
- 経営諮問会議は経営や法務に豊富な経験のある社外有識者4名を含む7名の常任メンバーで構成され、クラレグループの経営方針や重要な経営課題、事業計画、社長の進退、後継者候補、報酬などに関して、法令遵守、株主権保護、経営の透明性の視点から社長への助言を行っています。
- クラレは2007年6月から「株式の大量買付行為に関する対応策(買収防衛策)」を導入し、2009年6月の定時株主総会でその改定と3年延長を再決議しました。ルールに従わない買収者や、企業価値・株主共同の利益を著しく損なう買収行為に対しては、定められた手続きにもとづき、社外取締役、社外監査役から選任された4名で構成される特別委員会の勧告を最大限尊重した上で、取締役会で対抗措置の要否を決定します。

Web http://www.kuraray.co.jp/ir/strategy/governance.html

CSR推進体制

クラレは2003年に社会環境委員会、企業倫理委員会を統合して「CSR委員会」を設置し、グループとしてのCSR推進体制を強化しました。CSR委員会は経営レベルの専門委員会として4つの下部委員会(社会・経済委員会、環境安全委員会、温暖化対策委員会、リスク・コンプライアンス委員会)を設け、全社の方針や目標を検討して経営に提案しています。下記委員会を構成する専門職能部署はCSRに関する方針にもとづいて、グループの各組織と連携してそれぞれのテーマに取り組みます。

CSR委員会　組織図

リスク管理

クラレはグループとしてのいっそうの体質強化をめざして、全社的リスクマネジメントの見直し、整備を進めています。事業部、事業所、子会社および間接組織の長による自己評価にもとづき、現存するリスクを明確にし、その中から、経営に重大な影響を与え得るリスクを抽出し、リスク・コンプライアンス委員会およびCSR委員会にて検討しています。その上で、経営者が重要な「経営リスクの保有」について自ら判断し、グループのリスク管理基本方針を決定するとともに、必要な個別対応方針を指示します。その中で、偶発的で予測困難かつ重大な潜在的リスクを発見すること、全社的な視点でリスクの分類、定量化を行って優先的に対策を講じる経営の仕組みづくりに重点的に取り組んでいます。特に、クラレグループは、高市場シェア事業、独自技術事業を多く有しており、事業継続の観点からも、個別のリスクを統合して再評価しています。

あわせて、安全保障貿易管理プログラム、環境および安全マネジメントシステム、財務報告に係る内部統制評価などさまざまなリスク検証のシステムを通して、リスク管理状況の確認や改善を行っています。

万が一、重大な緊急事態が発生したときは、社長を本部長とする「緊急対策本部」を設置し、迅速な対策を実行する体制としています。

コンプライアンス

企業活動規準

- 私たちは、安全に配慮した商品・サービスを開発、提供します。
- 私たちは、自由、公正、透明な取引を実践します。
- 私たちは、社会との対話を図り、健全な関係を保ちます。
- 私たちは、地球環境の保全と改善、安全と健康の確保に努めます。
- 私たちは、営業秘密を含む知的財産を尊重し、情報を適切に管理します。

コンプライアンス宣言

1. 私たちは、法令・企業活動規準を遵守します。
2. 私たちは、企業利益よりも法令・企業活動規準を優先します。
3. 私たちは、法令・企業活動規準に反する行為、社会の信頼を裏切るような行為を防止するよう努めます。

クラレは経営者や一人ひとりの社員が「よき市民」として高い倫理観に裏打ちされた行動をとる組織風土を築き、企業の透明性、公正性を確保するため、狭義の法令遵守にとどまらないコンプライアンスへの取り組みを推進しています。

クラレは1998年に「企業活動規準」を定め、社会との幅広いかかわりの中で、すべての企業活動が地球環境、市民社会と調和したものであるための社員一人ひとりの行動のあり方を表明しています。2003年には「コンプライアンス宣言」を行い、企業利益よりも法令・企業活動規準を優先することを明言しています。さらに、2005年には、企業活動規準を具体的に表現した「クラレグループ行動規範」と事例解説を含む「コンプライアンス・ガイドライン」をまとめたコンプライアンス・ハンドブックを作成し、国内全社員（パート社員、契約社員、派遣社員を含む）に配布、教育を実施しています。2009年には、内容を改訂したハンドブックの第二版を作成しました。海外拠点での事情を反映させたコンプライアンス・ハンドブックを、米国版、ドイツ版、中国版、ベルギー版、シンガポール版をそれぞれ作成し、海外子会社社員に配布、教育しています。

また、国内クラレグループを対象に、コンプライアンスについての経営姿勢を明記したコンプライアンス・カード※を配布し、全社員に内部通報制度などの周知を図っています。

2011年度には、独占禁止法遵守指針第4版を発行、配布し、あわせて社外弁護士による教育を関係者に実施しました。

なお、企業活動規準と行動規範はクラレのウェブサイトで公開しています。

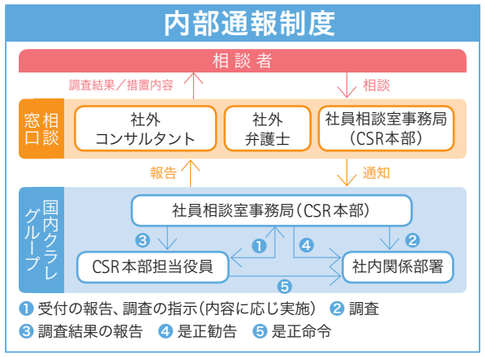
※コンプライアンス・カード
社長による「コンプライアンス宣言」、企業理念、企業活動規準、内部通報制度の相談窓口などを記載したカード。2003年から派遣社員を含む国内クラレグループの全社員に配布し、社員は常時携帯しています。

Web http://www.kuraray.co.jp/csr/conduct.html

内部通報制度

国内クラレグループ全社員（契約社員、派遣社員、パート社員を含む）を対象に、コンプライアンス違反を防止、または早期に発見・解決するための内部通報制度として「クラレグループ社員相談室」を設置しています。内部通報の方法・通報者保護ルールなどについては社内イントラネット、コンプライアンス・カードで全社員に周知しています。海外関係会社も、それぞれ内部通報制度を設けています。

また、各事業所にセクシャルハラスメントに関する専門の相談窓口も設置し、女性担当者を含むスタッフを配置しています。



コミュニケーション

クラレは社会に対する説明責任を果たすため、2007年5月に制定した「クラレグループ情報開示ポリシー」にのっとり、広範なステークホルダー（株主、顧客、調達先、社員、地域コミュニティなど）に向け、タイムリーで的確な情報開示を行っています。

Web http://www.kuraray.co.jp/disclosure.html

IR活動

クラレは投資情報の信頼性と公平性の重視を基本に、株主・投資家向けにIR活動を行っています。国内機関投資家向けに決算説明会を実施するとともに、一般投資家向けにウェブサイトを通じて決算説明会や株主総会の模様を動画配信するなど、タイムリーな情報提供の充実に努めているほか、個人投資家向け説明会を別途開催しています。

また、決算説明会の模様を英語版でも動画配信するとともに、定期的に欧州・北米・アジアの海外機関投資家を訪問し、当社の経営状況などについて、説明・意見交換を行っています。

決算説明会の模様を動画配信

Web http://www.kuraray.co.jp/ir/

広報・宣伝活動

クラレグループは、国内、海外の報道機関を通じた企業ニュースの発信をはじめ、日本語、英語、中国語によるウェブサイトへの最新の会社情報掲載、パンフレット・ビデオなど広報ツールの充実により、企業の現状をタイムリーに紹介する広報活動をグローバルに行っています。

また、当社の認知度、業容理解の向上をめざし、国内ではテレビCMを中心とした企業広告キャンペーンを、海外では化学専門誌に企業広告を掲載するなどの宣伝活動を展開しているほか、展示会への出展、イベントの実施などを通じて、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを図っています。

その一環として、2005年より国内最大級の環境展示会「エコプロダクツ」に出展しています。2011年は「環境系ミラバケッソ※」をテーマに当社の環境指向型の素材・技術を紹介し、約1万4千名の来場者を集めました。

2011年12月15日～17日　エコプロダクツ2011

※ミラバケッソ
クラレグループの企業広告キャンペーンにおけるキーワード。キャンペーンのキャッチフレーズ「未来に化ける新素材」の略。「未来に化ける新素材」→「ミラいにバケる新ソ材」→「ミラバケッソ」

Safety

安全への取り組み

クラレグループでは、労働災害、保安事故のリスクを発見し、その発生を未然に防ぐ安全マネジメントシステムを運用して、社員の安全意識の向上を通じた安全で事故・災害のない職場づくりを推進しています。また、万が一、事故・災害が発生した場合に備え、被害を最小限に抑えるための訓練や事故の事例、教訓などの情報共有化による再発防止に努めています。

労働安全・保安防災に関する理念・基本方針

労働安全・保安防災に関する理念
『安全はすべての礎』

労働安全・保安防災に関する基本方針（2012年度）

1. 「安全第一、生産（工事、開発）第二」を徹底すること
2. あらゆる場面で基本に立ち返って「確認」すること
3. 全員が無事故・無災害必達の決意を持って行動すること

安全マネジメント

国内クラレグループでは、2007年5月に制定した「安全活動マネジメント規定」にもとづき、年度ごとに計画を立てて労働安全・保安防災に取り組んでいます。具体的には、毎年社長および担当役員が出席する安全推進会議において、安全活動実績の総括評価を行うとともに、次年度の活動方針を定めます。この全社方針をもとに各事業所・各部署で方針・目標を定め、さらに具体的な活動計画に反映させて活動を行っています。活動計画の立案状況、計画にもとづく活動の状況およびその成果については、担当役員を含む本社安全スタッフが年2回各事業所を訪れて安全活動現場検証を行い、次年度の活動方針に反映させています。

また、2009年度からは各部署が自部署の安全レベルや弱点を客観的に評価するためのツールとして策定した「安全レベル評価システム」を活用して安全活動のPDCAサイクルをまわして、効率的かつ効果的な活動を行っています。

目標と実績

評価　◎：達成　○：概ね達成　△：さらに取り組みが必要

項目		対象範囲	到達目標	2011年度 目標	2011年度 実績	2011年度 評価	2012年度目標
労働安全	休業災害件数	国内クラレグループ	0（無災害）	0（無災害）	2件	△	0（無災害）
			安全で快適な職場、安全風土の確立	「安全レベル評価システム」を活用した効果的安全活動	左記システムにより明確になった弱点強化のための活動計画を策定、実施。	◎	・活動結果の適切な評価による効率的かつ効果的な安全活動の実施 ・危険源を見落とさない網羅的なリスク把握の着実な実施
				安全確保に対する一人ひとりの意識レベルの嵩上げ	危険感受性の向上を高める教育・訓練等により全体のレベルアップを図るとともに、個人面談等によりボトムアップに取り組んだ。	◎	
保安防災	保安事故件数	国内クラレグループ	0件	0件	1件	△	0件
			プラント設備の本質安全化	保安事故に係る危険源の特定と保安リスクの抽出、評価	「事業所リスク管理規定」に従い、保安リスクの抽出、評価、改善に加えて、東日本大震災を受け、従来の想定を超えてのリスクを抽出し、人命保護、災害・被害拡大防止等の減災の観点からの見直し・対策立案を開始した。	◎	・リスクの大きさに応じた適切な保安リスク低減対策の確実な実施
				保安管理システムの充実化	防災リスクの継続的な低減とともに、保安管理システムの継続的改善が行える体制を整備した。	◎	

労働安全

クラレグループでは、社員の安全と健康の確保こそが企業活動の基本と認識し、労働安全マネジメントシステムの適切な運用を通じて、組織として、また社員一人ひとりの安全レベルの向上に努め、安全で事故のない職場をめざしています。

2011年度は、昨年実施した「安全レベル評価システム」により明確化された部署ごとに安全活動における弱点の改善活動および、安全活動の改善成果を安全レベルとして「見える化」することで、効率的で効果的な安全活動に取り組みました。各部署の安全レベルは着実に向上しており、労働災害件数で見ると、2011年度は3件（休業2件、不休業1件）と、昨年度の5件（休業3件、不休業2件）から改善してきています。

2012年度は、新たな取り組みとして、組織の安全レベルを適切に評価するため、

1. 傷害結果による評価に加えて、潜在的な傷害程度と災害発生要因分析（質の悪さ）による労働災害の評価
2. 国内・海外関係会社同一基準での評価のため、すべての労働災害を対象とした休業災害度数率評価

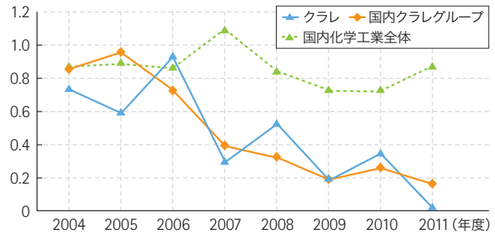
を行い、組織としての安全レベルの評価・向上および、社員一人ひとりの安全に対する意識を高める活動を効率的かつ効果的に実施し、休業災害ゼロの達成をめざします。

労働災害件数

	2007年度			2008年度			2009年度			2010年度			2011年度		
	休業	不休業	計	休業	不休業	計	休業	不休業	計	休業	不休業	計	休業	不休業	計
クラレ	2	0	2	3	0	3	1	0	1	2	1	3	0	1	1
国内関係会社	3	4	7	1	1	2	1	3	4	1	1	2	2	0	2
国内クラレグループ　計	5	4	9	4	1	5	2	3	5	3	2	5	2	1	3
国内協力会社※	7	2	9	1	2	3	1	0	1	0	0	0	1	1	2
海外関係会社	5	4	9	12	1	13	9	1	10	7	3	10	18	2	20

※クラレ場内で請負作業を行っている会社

労働安全成績（休業災害度数率※）の推移



※**休業災害度数率**　労働時間100万時間あたりの休業災害者数
＝休業災害者数÷延べ労働時間×1,000,000

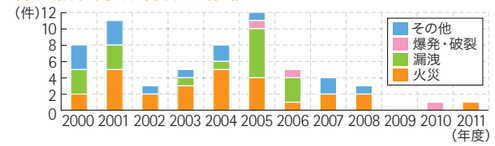
保安防災

クラレグループでは、社会に対して甚大な影響を与える爆発、火災、有害物質の漏洩などの事故・災害の未然防止を図り、災害発生時には被害を極小化することを重要な責任として考えています。そのためのリスク管理として、特に、設備の新設・改造時や運転条件等の変更時の安全審査・変更管理に注力しています。また、保安防災に関するリスクアセスメント（HAZOP※など）の推進、建築物・プラントの地震対策、設備の保安管理システムの整備、防災訓練などに全社的に取り組んでいます。

しかしながら、2011年4月にグループ会社において運転中の設備異常による小火災が発生しました。人的被害はなく、設備損傷も軽微でした。当該箇所は、危険源として認識されていましたが、本質的な発生防止対策がとられていませんでした。

2012年度はあらゆる観点からの保安事故につながる危険源の特定を継続するとともに、リスクの大きさに応じての本質的な発生防止対策（防災）に加えて、被害拡大防止対策（減災）を適切に検討・実施します。

保安防災事故件数の推移【国内グループ】



※**HAZOP**　Hazard and Operability Studyの略で、化学プロセスにおける危険シナリオ分析手法の一つ。

総合防災訓練

クラレグループでは、生産活動の中で大量の危険物や高圧ガスなどを扱っているため、各事業所では防消火設備の整備を行うとともに、事業所ごとに防災組織を編成し、定期的な訓練を行うことで万一の事故・災害に備えています。2011年度も各事業所において、火災や危険物の漏洩、地震や津波、夜間・休日の発生などさまざまな状況を想定した防災訓練を実施しました。

また、重大な事故の発生においては全社的な危機管理が必要となることから、社長をはじめとした本社各部門の代表者が参加し、「コーポレート緊急対策本部」の訓練を行っています。2011年度は、12月に岡山事業所での火災事故を想定した訓練を実施し、事業所と本社の連携の確認を行いました。加えて、2011年度は、首都圏直下型地震による東京本社被災を想定した防災訓練を実施しました。東京・大阪本社に緊急対策本部を設置して両本部の連携対応の確認を行いました。

新潟事業所の防災訓練

東京本社の防災訓練

物流安全

クラレは物流事故による社会的被害を防止するため、製品の輸送、保管面での物流安全確保の活動を継続して実施しています。この活動の中心となるクラレ物流安全協議会は11年目を迎え、2011年度は「ウィング車、トラック荷役作業中の転落による事故検証」をテーマに一般貨物の輸送を中心とした物流業者の安全研修(2回、延べ22社参加)を実施しました。

製品安全

製品安全に関する基本方針

安全で信頼できる製品の供給を通じて、顧客のニーズに応え、豊かでゆとりある社会の実現に貢献することを目指す。

製品安全行動指針

❶安全関連法規および最新の技術水準を踏まえ、社会が期待する安全性レベルを満たす製品を供給する。
❷供給する製品について予測される危険を最小に抑える。
❸すべての製品がそれぞれに要求される品質安全基準を満たすよう、適切な品質管理システムを維持する。
❹製品の不適切な使用・取り扱いによる事故を防止するため、顧客やユーザーに正しい製品情報を提供する。
❺より安全な新製品の開発、製品安全技術の向上に努める。
❻製品安全の確保・向上と迅速な事故対応のため、情報収集、社内外の協力体制の強化に努める。
❼全社員の製品安全意識の高揚と製品安全を担う人材の育成に努める。

クラレグループでは、安全な製品を提供することが企業活動の根幹と認識し、「企業活動規準」において安全に配慮した製品・サービスの開発・提供を定めています(P.7参照)。

また、多様化するニーズや法規などに適合した製品を提供するために「製品安全に関する基本方針」および「製品安全行動指針」を定めています。

推進体制

品質管理や製品安全に関する活動は、日常的には各事業部、関係会社を主体として実施しています。全社的な課題についてはCSR本部(品質保証グループ)や「品質・PL※ワーキングチーム」において、対応策や改善策を検討する体制としています。2011年度は、医療機器やナノ材料(CNT)を用いた製品等の新たな用途への材料提供について事業部とCSR本部が協働して製品安全対策を検討しました。また、化学品管理は、基本的に各事業部、関係会社を主体として推進し、CSR本部がその状況を確認、全体を管理する体制としています。

※PL(Product Liability)
製品の欠陥によって、人の生命、身体、財産に損害を与えた場合に、その製品を製造または加工した業者などに求められる損害賠償責任。損害と製品の欠陥との因果関係が証明されれば、製造業者は過失の有無にかかわらず責任を負います。

品質保証

品質マネジメントシステム

クラレグループでは、ISO9001等や事業活動の流れにあわせた品質マネジメントのシステムづくりを行うとともに、「製品安全に関する基本方針」および「製品安全行動指針」にもとづいて、顧客要求事項や顧客満足度などの情報を収集し、質の高い製品をお客様に提供すべく努力を重ねています。

品質マネジメントシステム認証一覧
(2012年3月末現在)

❶ISO9001
- **クラレ新潟事業所**
- **クラレ鹿島事業所**
- **クラレ岡山事業所**
- **クラレ倉敷事業所**
  (アクア生産技術開発部/商品開発部、フィルム生産・技術開発部)
- **クラレ玉島(株)**(エステル工場)
- **クラレ西条事業所**
- **クラレプラスチックス(株)**(伊吹工場)
- **クラレケミカル(株)**(鶴海工場)
- **クラレファスニング(株)**(丸岡工場)
- **クラレエンジニアリング(株)**
- **クラレトレーディング(株)**(資材・化成品事業部ベルト製品部)
- **クラレテクノ(株)**(ビル管理サービス事業部)
- EVAL Europe N.V.
- Kuraray Europe GmbH(Division PVA/PVB, Division TROSIFOL)
- Kuraray America,Inc.(EVAL BU, SEPTON BU)
- Kuraray Asia Pacific Pte.Ltd.

※事業所・工場の敷地内に所在する下記のグループ会社を含みます。クラレ西条(株)、クラレクラフレックス(株)、クラレ岡山スピニング(株)、クラレテクノ(株)

❷ISO13485(医療機器)
- **クラレノリタケデンタル(株)**(2012年4月1日から)
- **クラレ 化学品カンパニーメディカル事業部**
- Kuraray Dental Benelux B.V.

❸ISO/TS16949
(自動車供給業者および関連業務部門組織)
- EVAL Europe N.V.
- Kuraray Europe GmbH(Division TROSIFOL)
- OOO TROSIFOL

製品苦情対応

品質マネジメントシステムや、「PL関連事故対応および品質クレーム報告規定」にもとづき、品質にかかわる苦情への迅速かつ確実な対応に努めています。いただいた貴重なご指摘、ご要望は真摯に受け止め、事業活動に生かしています。

クラレグループでは、2011年度には重大な健康被害・火災の発生の原因となるような製品回収、事故はありませんでした。

化学品管理

クラレグループでは、「化学物質総合管理規定」等にもとづいて、開発・製造・販売の段階で化学物質に関連する法規制への対応や危険有害性の把握を行っています。化学物質の安全な取り扱いを確保するために「製品安全データシート管理規定」を定め製品の取扱方法や有害性情報を記載した安全データシート(SDS※)を作成し提供しています。また今後の事業拡大や化学物質関連法規制の変更等に備え、化学物質情報を一元的に管理するシステムの導入を計画しています。

EUではREACH※の年間100トン以上EUで製造・輸入される既存化学物質の本登録期限が2013年5月31日であり、在欧グループ会社を中心に登録の準備を進めています。

※SDS(Safety Data Sheet;安全データシート)
化学製品の危険有害性について安全な取り扱いを確保するために、その物質名、供給者名、分類、危険有害性、安全対策および緊急事態の対策などに関する詳細で不可欠な情報を記載した資料。

※REACH(Registration, Evaluation, Authorisation and Restriction of Chemicals;化学物質の登録、評価、認可及び制限に関する規則)
EUの化学品規制。①行政が行っていたリスク評価を事業者の義務に変更、②新規化学物質だけではなく、既存化学物質についても事業者ごとの登録の義務付け、③サプライチェーンを通じた化学物質の安全性や取り扱いに関する情報の共有を双方向で強化、④成形品に含まれる化学物質の有無や用途について情報の把握を要求、などの新しいアプローチが導入されました。本規制は、2007年6月より施行されています。

Environmental

環境への取り組み

クラレグループは、環境と調和した事業展開や製品の提供を指向するとともに、「ISO14001」を活用した環境マネジメントシステムを運用し、地球温暖化対策の推進、化学物質の排出管理、廃棄物の有効利用、水資源の有効利用などの環境保全活動に継続して取り組んでいます。

環境マネジメント

クラレグループ地球環境行動指針

クラレグループは次の基本方針と行動原則を定め、地球環境保全活動に取り組んでいます。

◆基本方針

地球環境、地域社会と調和した事業活動を通じて、次世代への責任を果たしていきます。この基本方針を実践するために、以下の活動を行います。

1. 環境と安全を最優先課題として事業活動を行う。
2. 永続性のある地球環境改善活動を行う。
3. 地球環境改善に貢献する技術、商品の開発を行う。

◆行動原則

1. 環境への有害化学物質の排出量の継続的削減
2. 気候変動防止のため、温室効果ガスの排出削減と、エネルギー効率向上
3. 省資源、再使用、リサイクルの推進
4. 環境改善技術および環境負荷の少ない商品の開発と提供
5. 環境に優しい商品の使用
6. 環境情報の公表と社会との対話
7. 環境に対する意識向上と環境管理レベルの向上
8. ステークホルダーとの連携

環境保全推進体制

クラレは全社的、中長期的な視点から環境保全活動に取り組むため、CSR委員会の中に温暖化対策委員会、環境安全委員会を設け、クラレグループの地球温暖化対策や、化学物質の排出管理、廃棄物の有効利用、水資源の有効利用などの活動を推進しています。

新環境中期目標

これまで環境中期目標の対象範囲はクラレサイトまたは国内グループとしていましたが、新環境中期目標では海外関係会社を加えたクラレグループ全体を対象に、国内グループ、海外関係会社について環境効率※を指標とする2020年度の到達目標を設定しました。また、目標項目については、水資源の有効活用を重点項目に新たに追加しました。

※**環境効率**　環境効率＝売上高／環境負荷
（温室効果ガス排出量、化学物質排出量、廃棄物発生量、水使用量）

評価　◎：達成　○：概ね達成　△：さらに取り組みが必要

	2011年度				新環境中期目標		2012年度目標	掲載頁
	対象範囲	目標	実績	評価	対象範囲	目標（達成年2020年度）		
地球温暖化防止	クラレサイト	【温室効果ガス排出量】1990年度対比10%削減（排出量1,226千トン-CO_2）	1990年度対比11.4%減（排出量1,207千トン-CO_2）	◎	国内クラレG	【温室効果ガス排出量】環境効率40%向上（2010年度対比）	【2012年度実施の温室効果ガス排出削減量】20千トンの削減対策の実施	P.14-15
		【2011年度実施の温室効果ガス削減対策量】1990年度排出量の2.2%相当分の削減対策の実施（削減量30千トン-CO_2）	1990年度排出量の2.6%相当分の削減対策を実施（削減量 36千トン-CO_2）	◎	海外関係会社	【エネルギー使用量】※環境効率10%向上（2010年対比）	【環境効率（エネルギー使用量）】2010年対比2%の向上	
化学物質の排出管理	生産事業所における削減活動は継続しますが、国内グループとして総量の削減目標は設定しません。				国内クラレG	【日化協PRTR物質排出量】環境効率100%向上（2010年度対比）	【日化協PRTR物質排出量】2010年度排出量（1,104トン）の維持	P.15
廃棄物の有効利用	国内クラレグループ	【廃棄物有効利用率】90%以上	95%	◎	国内クラレG	【廃棄物発生量】環境効率10%向上（2010年度対比）	【廃棄物の発生抑制対策】2011年度発生量の1%相当分の削減対策の実施（削減量 748トン）	P.15-16
		【2011年度実施の廃棄物発生抑制対策】2010年度発生量を基準として1%相当分を削減（削減量 745トン）	2010年度発生量を基準として4.7%相当分を削減（削減量 3,494トン）	◎	海外関係会社	【廃棄物発生量】環境効率10%向上（2010年対比）	【環境効率（廃棄物発生量）】2010年対比2%の向上	
水資源の有効利用	—	—	—	—	国内クラレG	2014年度までに現況把握や水使用の見直しを行い、2015年度に具体的な目標値を設定する		P.16
					海外関係会社	【水使用量（海水除く）】環境効率10%向上（2010年対比）	【水使用量（海水除く）】環境効率2%向上（2010年対比）	

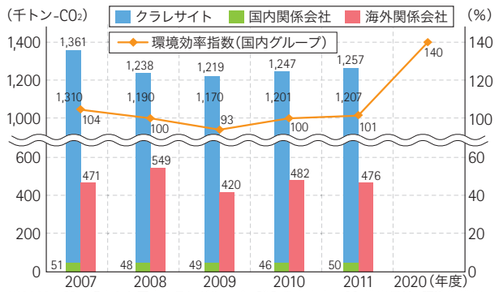
※クラレの海外関係会社は電力・蒸気のほとんどを外部購入しています。温室効果ガス排出量は供給元の影響（排出係数の変動）を大きく受けることから、海外関係会社の活動を適正に評価するため供給元の影響を受けないエネルギー使用量を採用しました。

地球温暖化防止

クラレは、新環境中期計画の中で2020年度に国内グループは温室効果ガス排出量の環境効率40%（2010年度対比）の向上を、海外関係会社はエネルギー使用量の環境効率10%（2010年対比）の向上を到達目標に掲げました。2011年度の国内グループの環境効率は温室効果ガスの排出削減対策により、基準年と比較して1%の向上となりました。一方、海外関係会社は、生産条件の見直しによる蒸気使用量の削減などにより基準年比8%の大幅な向上となりました。

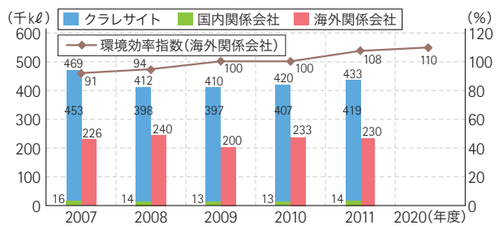
2011年度の温室効果ガスの排出量は、国内グループ1,257千トン（クラレサイト1,207千トン、国内関係会社50千トン）、海外476千トンとなり、クラレグループ合計の排出量は1,733千トン（前年度比4千トン増加）でした。2011年度に実施した削減対策は、新潟事業所での高効率ガスエンジン発電機の稼働開始（3千トン、2012年度は13千トンの見込み）、倉敷事業所でのバイオマス発電に使用する廃材などのバイオマス燃料の使用拡大による化石燃料の使用量の低減（13千トン）および各事業所における生産条件の見直し、省エネルギー機器の導入などにより36千トンの温室効果ガスを削減しました。

温室効果ガス排出量



※2009年度の報告から国内クラレグループの購入電力由来のCO_2排出量は、調整後排出係数をもとに算出しています。

原油換算エネルギー使用量



バイオマス発電

倉敷事業所（玉島）では、2002年にボイラー用の主燃料である石炭の代替燃料としてバイオマス燃料（建築系解体木屑）を導入しました。2011年度はバイオマス燃料の供給元の拡大、石炭燃料の高騰により昨年度と比較して大幅にバイオマス燃料の使用量が増加し、CO_2削減に寄与しました。

高効率ガスエンジン発電

新潟事業所では、天然ガスを燃料とする高効率ガスエンジンの導入により、電気・蒸気の適正な供給を低環境負荷で達成しました。2012年度には年度を通してCO_2削減に寄与する見込みです。

ガスエンジン発電設備

啓発活動

クラレの各事業所では、生産活動における環境負荷の削減に努めるとともに、都道府県や市町村の主催する環境活動に積極的に参加しています。2011年度は、茨城県が主催する「地球にやさしい企業表彰」で環境保全活動の具体的な実践活動の取り組みに成果を挙げている企業として鹿島事業所が環境マネジメント部門の表彰を受けました。また、岡山事業所では岡山県などが主催する「省エネサマーチャレンジ」に参加し、社員約500名の各家庭での積極的な節電に対し感謝状をいただきました。

輸送時の環境負荷低減

クラレでは、改正省エネルギー法で定められた目標である「エネルギー使用に係る原単位※の年平均1%削減」を達成するために、モーダルシフト※を含めたさまざまな輸送の効率化を進めています。2011年度の売上高は増加しましたが、CO_2排出量は11.8千トンと前年度と比較して0.5千トン減少（△3.9%）しました。エネルギー使用に係る原単位では、基準となる2006年度と比較して、2007年度以降の5年間で年平均4.2%の低減を達成しています。

※エネルギー使用に係る原単位
経済産業省に報告する際に使用するエネルギー使用量改善の指数数値。エネルギー使用量÷エネルギー使用量に密接な関係を持つ値（当社では売上高を採用しています）。

※モーダルシフト
輸送手段をトラックから環境負荷の少ない鉄道や船輸送に切り替えること。

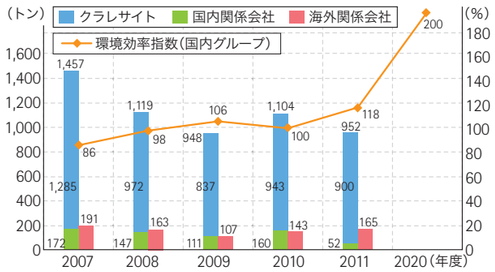
化学物質の排出管理

2011年度の国内クラレグループの環境効率は、鹿島事業所でのシクロヘキサンなどの無害化処理、クラレプラスチックスでの接着剤の非有機溶剤化による排出量削減（前年対比153トン減少）により、2010年度に対して18%向上しました。

なお、日化協PRTR※化学物質の排出量は、国内グループ952トン（クラレサイト900トン、国内関係会社52トン）、海外関係会社165トンとなり、2011年度のグループ合計の排出量は1,117トン（前年度比130トン減少）でした。

※日化協PRTR
対象とする化学物質の排出量を把握し、自主的に削減を図る活動。化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）施行以前から（社）日本化学工業協会が行っており、クラレは開始当初からこの活動に参加しています。日化協PRTR活動対象434物質（うち、PRTR法対象328物質）のうち、国内クラレグループでは74物質（うち、PRTR 法対象56物質）が対象になります。

日化協PRTR対象物質排出量の推移

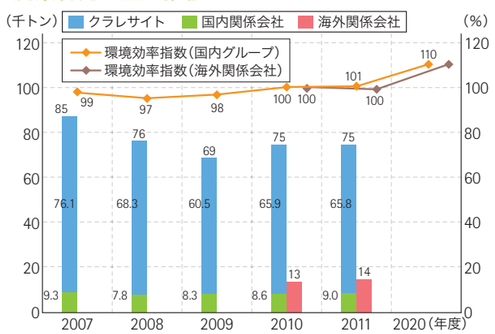


廃棄物の有効利用

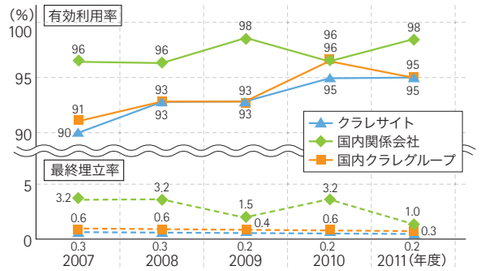
国内クラレグループは廃棄物の有効利用率90%以上、最終埋立処分率1%以下を2007年度から継続しています。2009年度からは有効利用率、最終埋立処分率を維持活動として取り組み、新たな活動項目として廃棄物の発生量の抑制を掲げています。

廃棄物の発生量自体は生産量に大きく影響されることから対策による削減量に着目し、2011年度は前年度の発生量に対し1%相当分以上の対策を実施することを目標に掲げました。各事業所では製品くず・格外品の再原料化、生産設備の運転条件の適正化に努め、国内クラレグループとして3,494トン（前年度の廃棄物発生量に対し4.7%相当）の削減を行い、環境効率は2010年度対比で1%の向上となりました。

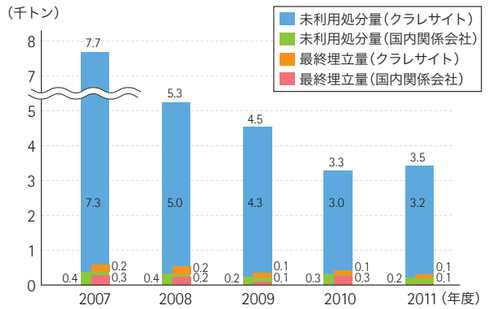
廃棄物発生量の推移



廃棄物有効利用率・最終埋立率の推移



廃棄物未利用処分量の推移



PCB※廃棄物の処理

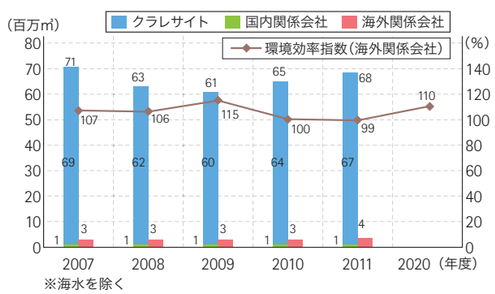
クラレグループでは、「PCB廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」に従いPCB廃棄物、および微量のPCBを含む廃棄物（微量PCB廃棄物）を適切に保管・管理するとともに、順次、法令に従って無害化処理を実施しています。2011年度は、倉敷事業所、くらしき研究センターに保管するPCB廃棄物の一部を日本環境安全事業（株）で処理しました。また、西条事業所の微量PCB廃棄物（廃油）を（財）愛媛県廃棄物処理センターで処理しました。

※PCB（ポリ塩化ビフェニール）
有機塩素化合物の一つで、電気機器の絶縁油、熱交換器の熱媒体などさまざまな用途で利用されていましたが、その毒性から、2001年に製造・輸入が禁止されPCB廃棄物を保管している事業者は2016年までに無害化処理することが義務付けられました。また、2002年には、PCBを使用していないとする電気機器の中に、実際には微量のPCBに汚染された絶縁油を含むものがあることが判明し、PCB廃棄物と同様に2016年までに無害化処理することが義務付けられています。

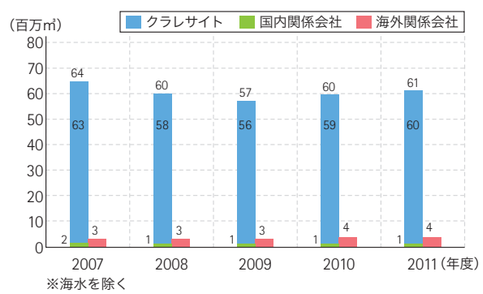
水資源の有効利用

近年、水資源への関心が世界的に高まっています。地球に存在する水のうち淡水は2.5%であり、さらに利用が可能な地下水、河川水、湖沼水に限るとわずか0.8%にすぎません。クラレグループでは日々の生産活動で多量の淡水を使用していることから、新たに「水資源の有効利用」を環境活動項目に加えました。国内グループは今後3年間で対策を検討した上で2015年に数値目標の設定を判断します。また、海外関係会社は環境効率を指標として2020年度に2010年度対比10%の向上をめざします。

水使用量・環境効率の推移

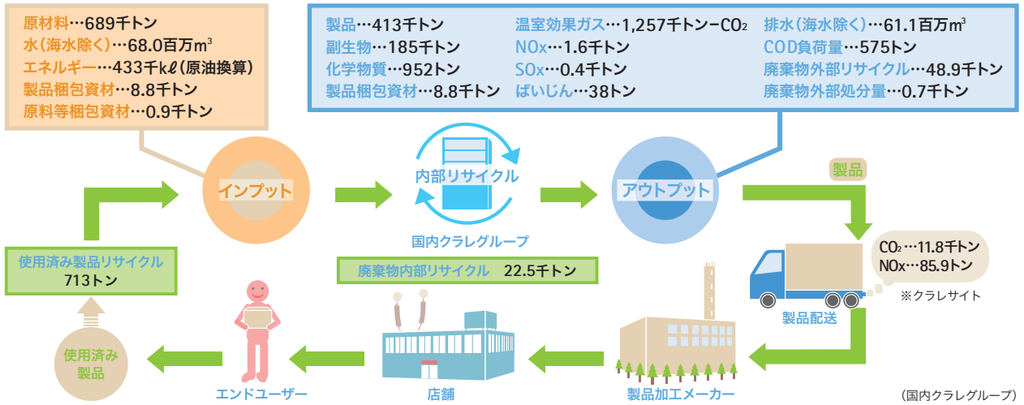


排水量の推移



事業活動のマテリアルフロー（2011年度）

クラレグループは事業活動の中で多くのエネルギー、化学物質および水資源などを使用しています。投入する資源、排出物質を定量的に把握し、事業活動にともなう環境負荷を低減するために役立てています。



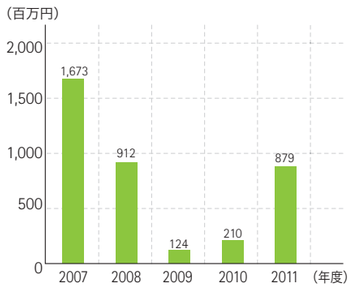
環境会計

環境保全コスト（百万円）

分類		投資額	費用額	主な内容
事業所エリア内コスト	公害防止コスト	375	1,462	環境設備の運転費用、化学物質の排出防止対策
	地球環境保全コスト	276	11	ガスエンジン発電設備の導入
	資源環境コスト	166	519	生産工程くずの再原料化
	計	817	1,992	
上・下流コスト		－	129	梱包材料の回収・再使用、容器包装の改良
管理活動コスト		60	118	ISO14001、環境測定、環境教育
研究開発コスト		3	103	環境配慮型製品の開発
社会活動コスト		－	0	緑化、美化、地域住民への環境情報提供
環境損傷コスト		－	0	
合計		879	2,342	

●当該期間の投資額の総計291億円（環境会計の対象範囲にあわせて合算）
●当該期間の研究開発費の総計128億円（同上）

環境設備投資額



環境保全効果

区分		単位	2010年度	2011年度	差
公害防止効果	SOx排出量	トン	430	375	▲ 55
	NOx排出量	トン	1,528	1,516	▲ 12
	ばいじん排出量	トン	27	22	▲ 5
	PRTR物質排出量	トン	943	900	▲ 43
	COD負荷量	トン	583	573	▲ 10
地球環境保全活動	温室効果ガス排出量	千トン-CO_2	1,201	1,207	6
	エネルギー使用量	千kℓ（原油換算）	407	419	12
資源循環活動	廃棄物未利用外部処分量	トン	422	511	89
	廃棄物有効利用率	%	95.5	95.1	▲ 0.4
	水資源使用量 ※	百万m³	64	67	3
	総排水量 ※	百万m³	59	60	1

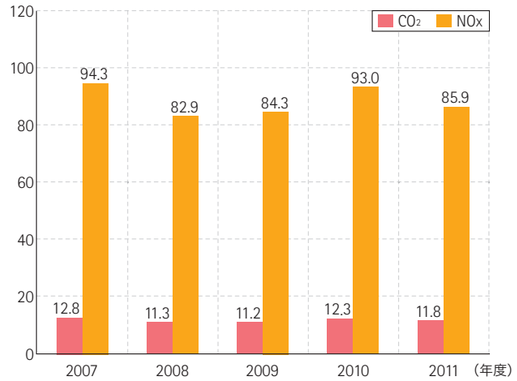
※海水を除く

①環境会計の集計に当たっての前提条件
●対象期間…2011年4月1日 ～ 2012年3月31日
●対象範囲…クラレ
②環境保全コストの算定基準
●減価償却費…定額法
●複合コストの計上基準
原則100%環境保全項目にコストを計上していますが、一部按分集計をしています。
③環境保全効果の算定基準
●前年度環境負荷総量との比較により算出しています。
なお、生産量調整は行わず、前年度との単純比較です。
④環境保全対策にともなう経済効果の算定基準
●実質的効果としてリサイクル収入などを把握していますが、環境保全コストをマイナス処理しています。

環境データ集

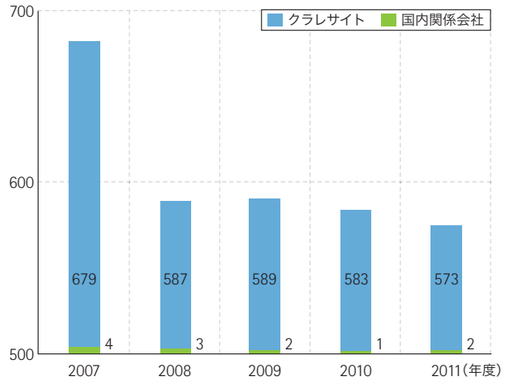
■ 輸送時の環境負荷低減（クラレサイト）

輸送時の二酸化炭素およびNOx排出量
（CO_2:千トン／NOx:トン）



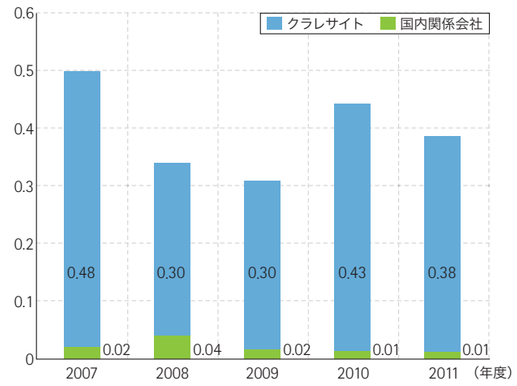
■ 水質汚濁防止

COD負荷量
（トン）

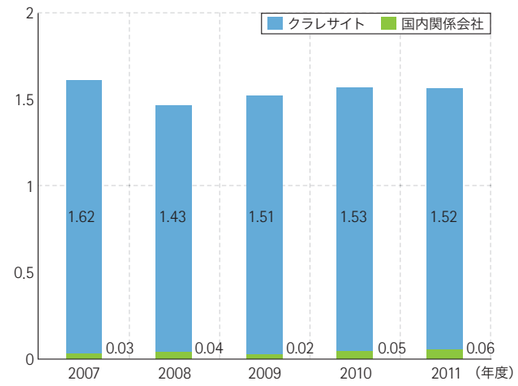


■ 大気汚染防止

SOx排出量
（千トン）



NOx排出量
（千トン）



環境マネジメントシステム（ISO14001）認証

●クラレ新潟事業所
●クラレ岡山事業所
●クラレ鹿島事業所
●クラレ倉敷事業所（くらしき研究センター含む）
●クラレつくば研究センター
●クラレ西条事業所
●クラレケミカル（株）（鶴海工場）
●クラレプラスチックス（株）（伊吹工場）
●クラレファスニング（株）（丸岡工場）
●Kuraray America Inc.（EVAL BU、SEPTON BU）
●EVAL Europe N.V.
●Kuraray Europe GmbH（PVA/PVB Division,Trosifol Division）
●OOO TROSIFOL
●Kuraray Asia Pacific Pte.Ltd.

※事業所の敷地内に所在する次記の関係会社を含む：クラレクラフレックス（株）、クラレ岡山スピニング（株）、クラレ玉島（株）、クラレ西条（株）、クラレエンジニアリング（株）、クラレテクノ（株）、協精化学（株）、クラレノリタケデンタル（株）（2012年4月1日から）

Social

社会との取り組み

クラレグループは、社会の健全で持続可能な発展が企業としての成長や繁栄の条件であるとともに、企業活動の究極の目標であると考えます。人々にとって価値のある製品や事業を通して社会に貢献することはもちろん、企業市民として一定の節度ある範囲で社会的な問題に取り組むことは、企業として重要な社会貢献であると認識しています。

社会貢献活動

クラレグループは、教育・医療・福祉などの領域で、当社の創意とイニシアチブを生かした社会貢献活動を続けています。また、地域社会との調和のとれた共生をめざして、社員によるボランティア活動を支援しています。

少年少女化学教室

クラレでは、子どもたちに化学実験を体験してもらい、楽しさを知ってもらう教育活動として、小学生を対象に「少年少女化学教室」を開催しています。

この教室は、事業所内の専門教室や、地域の小学校、公共施設などで、社員ボランティアが講師やアシスタントを務めるもので、1992年より毎年各事業所で開催しています。また、2002年から一般社団法人日本化学工業協会が主催する「夢・化学－21」子ども化学実験ショーにも出展を続けています。2011年度は「少年少女化学教室」に、延べ12回449名の子どもたちが参加し、通算開催回数が200回を超えました。「夢・化学－21」では、高吸水性樹脂を使った芳香剤をつくる実験に約1,200名の子どもたちや保護者が参加しました。

少年少女化学教室開催実績

事業所	教室名	累計開催回数	累計参加人数
倉敷事業所	おもしろかがく館	59回	1,662名
西条事業所	わくわく化学教室	56回	1,667名
岡山事業所	おもしろ化学教室	34回	1,138名
新潟事業所	ふしぎ実験室	44回	1,412名
鹿島事業所	おもしろ化学教室	11回	861名
合計		204回	6,740名

また、2011年10月には、約20年にわたる活動が評価され、一般社団法人日本化学連合が主催する「化学コミュニケーション賞」を受賞しました。

おもしろ化学教室（岡山事業所）

ランドセルは海を越えて

「ランドセルは海を越えて」は戦禍によって教育機会を奪われたアフガニスタンなどの子どもたちに、毎年、日本の小学生が使っていたランドセルを文房具や手紙を添えて贈る国際貢献活動です。

2004年のスタートから8年目を迎えたこの活動は年々その規模が拡大し、2011年は全国各地から、約10,000個のランドセルの応募がありました。子どもたちの思いの詰まったランドセルは、ジョイセフ（財団法人家族計画国際協力財団）をはじめ、関係団体やクラレグループ社員の手で仕分けて梱包した後、さらに多くのボランティアの協力を得て海を渡り、今年も現地の子どもたちに届けられました。

また、2011年度も継続して秋田県立大学の「ヒマラヤプロジェクト」（ヒマラヤ山村の小学校に電灯をともす活動）を通じて、ネパールの子どもたちにランドセルと文房具をプレゼントするなど、活動の裾野を広げています。

アフガニスタンの子どもたち（写真：ジョイセフ提供）

ネパールの子どもたち（写真：秋田県立大学ヒマラヤプロジェクト提供）

検品、梱包作業に集まったボランティア

知的障害者の自立支援

クラレは、障害者に雇用機会を提供することによって、その自立を支援するため、地域の福祉施設と連携して知的障害者のための作業所を設置しています。

新潟事業所の「クラレ作業所」は、1997年に中条町（現胎内市）と社会福祉法人七穂会「虹の家」の協力を得て、知的障害者就労の場として開所し、生産工程で発生する端材をリサイクルするための分別や、備品の製作などを行っています。2007年には西条事業所の「ひまわり作業所」が開所し、生産工程で発生する残糸をリサイクルするための回収や計量作業を行っています。

また2011年2月にも、鹿島事業所で、社会福祉法人神栖啓愛園の支援により「あおぞらワークス」を開設、液状樹脂の梱包用の袋の製作を開始しました。

倉敷事業所で作業服のクリーニング・歯科材料のラベル貼付作業に従事している社員を含めると、4つの事業所で、合わせて10名の指導員と33名の障害者が働いています。

クラレ作業所（新潟事業所）

ひまわり作業所（西条事業所）

医療施設、福祉施設へのサポート

日本のフィランソロピーの先駆者である初代社長の大原孫三郎は数々の医療施設、福祉施設、文化・研究施設の創立に携わりました。クラレグループは社会貢献の一環として、「社会福祉法人石井記念愛染園」、「公益財団法人大原美術館」、「財団法人倉敷中央病院」、「社会医療法人同心会西条中央病院」に対する経営面のサポートを継続するほか、事業所の福利施設を活用した高齢者介護施設を運営しています。

愛染橋病院

倉敷中央病院

西条中央病院

クラレアメリカでは、ラ・ポルテ教育財団に対して、寄付やボランティアによるサポートを提供しています。社員は毎年、募金活動や、教師に教育向上のための奨学金を支給するかどうかを審査する「ドルパトロール」に参加しています。

ドルパトロール

東日本大震災に関する支援

東日本大震災を受けて、クラレグループでは、各事業所から「クラレふれあい募金※」を中心とした寄付、国内外の関係会社からはマッチングギフト形式の寄付、新潟事業所では、社宅を開放して被災者を受け入れるなど、さまざまな形で継続して被災地を支援しました。また、労働組合を通じて、社員が被災地での復興支援ボランティアに参加しています。

※クラレふれあい募金
クラレでは、社員の寄付金に、その同額を会社がプラスして行う寄付制度であるマッチングギフトを、「クラレふれあい募金」の名称で1992年7月からスタートしました。制度に賛同する社員が給与の100円未満の端数を積み立て、さらにその同額を会社が拠出します。集まったお金を基金として、社会福祉団体等に物品を寄付するなど、社会福祉に役立てています。

地域社会との対話

工場見学会・説明会

クラレの各事業所およびクラレプラスチックス、クラレケミカル、クラレファスニングの各工場では地域住民とのコミュニケーションを目的とした、工場見学会や定期的な説明会を開催しています。2011年度は延べ2,976名の方にご参加いただき、事業所の活動状況への理解を深めていただきました。

各事業所での主な取り組み

事業所	取り組み
倉敷事業所	クリスマスファンタジー、子ども会球技大会、サマーフェスティバル、グラウンドゴルフ大会
西条事業所	観桜会、ケナフの栽培、サマーフェスティバル
新潟事業所	観桜会、中学校ソフトテニス大会、サマーフェスティバル
岡山事業所	ママさんバレーボール大会、児童球技大会、サマーフェスティバル
鹿島事業所	ママさんバレーボール大会
クラレケミカル	サマーフェスティバル
クラレプラスチックス	サマーフェスティバル

地域社会との交流

西条事業所と新潟事業所では、敷地内にある桜の開花時期にそれぞれ観桜会を開催しています。2011年度はあわせて約10,000名が来場され、満開の桜を観賞していただきました。倉敷事業所では、12月にライトアップされたヒマラヤ杉が夜空を彩るクリスマスファンタジーのイベントを市民に公開しました。2011年は日独交流150周年を記念し、国内外でさまざまなイベントが行われました。クラレヨーロッパは、フランクフルトで開催された「ジャパンウィーク」のメインスポンサーとなり、関連イベントに多くの社員も参加し、日独の文化交流に一役買いました。

クリスマスファンタジー（倉敷事業所）

観桜会（西条事業所）

ジャパンウィーク（フランクフルト）

CSR調達

CSR調達方針

人権の重視
❶ 人権・人格の重視
❷ ILOの中核的労働基準の遵守
- 団結権・団交権の保証
- 強制労働の禁止
- 児童労働の禁止

コンプライアンスの遵守
- コンプライアンス方針
- コンプライアンス遵守システム
- コンプライアンス教育プログラム

グリーン調達の推進
- 環境方針、環境報告書の作成
- グリーン調達の実行計画、実行組織
- ISO14001の認証取得
- グリーン調達の教育、啓蒙の実施

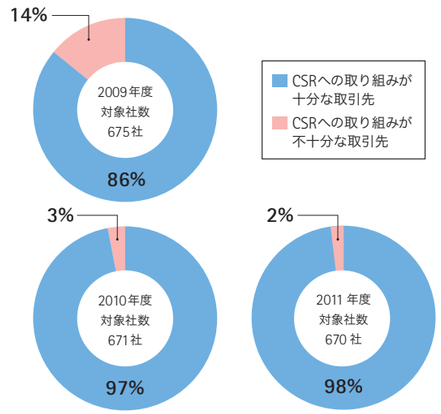
クラレは2005年にCSR調達方針を策定しました。これは国際的な普遍的原則である「国連グローバル・コンパクト」の10原則にもとづき3分野11項目を設定したものです。主要取引先に対してこのCSR調達方針をお知らせし、協力を依頼することによって、より効果的なCSR調達に取り組んでいます。

活動状況

2011年度CSR調達活動への取り組みが不十分であった取引先20社に対し、再度積極的な取り組みをお願いしました。その結果、取り組み十分5社、不十分14社となり調査対象取引先670社中、取り組み十分な取引先は98%となりました。

取り組みが十分と判断する基準
CSR調達方針11項目のうち、8項目以上について取り組みを実施している場合

CSR調査の結果



グリーン購入

CSR調達活動の一環として、2009年度に見直しを実施した「グリーン購入ガイドライン」にもとづき、環境にやさしい商品（グリーン商品）を優先的に購入しています。

グリーン購入実施状況表

分野		品目		購入金額（百万円）	グリーン購入比率	
					2010年度	2011年度
1	紙類（Recycle）	3品目	コピー用紙、印刷用紙、衛生用紙	49	16%	3%
2	文具（Recycle）	82品目	シャープペンシル、ボールペン、マーキングペン、鉛筆ほか	18	60%	73%
3	備品（Reuse）	10品目	いす、机、棚、傘立て、収納用什器、掲示板、ローパーテーション、コートハンガー、黒板、ホワイトボード	11	86%	90%
4	OA機器（省エネルギー）	4品目	パソコン、プリンター、コピー機、FAX	79［金額はリース］	100%	100%
5	家電製品（省エネルギー）	2品目	電気冷蔵庫、テレビ	2	93%	80%
6	照明（省エネルギー）	2品目	蛍光ランプ、電球形状のランプ	3	69%	65%
7	自動車（環境汚染の削減）	1品目	自動車	69［金額はリース］	96%	99%
8	制服・作業服（Recycle）	2品目	制服（本社女子用）、作業服	22	100%	100%
9	消火器	1品目	消火器	16	81%	93%

※本社女子制服は廃止となったため、作業服のみの実績

Social

職場での取り組み

クラレグループはグローバル人事ポリシーにもとづいて、社員一人ひとりが仕事を通じて人間的に成長できるよう、多様性の推進、人材育成、公正・公平な評価などの制度を整えるとともに、健全な組織風土の醸成と雇用機会の創出に取り組んでいます。

クラレグループ グローバル人事ポリシー

❶ 個人の人権を尊重します。
企業理念「個人の尊重」にもとづき、全ての働く人の人格・人権を尊重します。セクシャルハラスメント、児童労働、強制労働といった人権侵害を排除いたします。

❷ 差別を撤廃し、多様性を尊重します。
雇用、処遇、能力開発、配置、評価などあらゆる人事局面において、業務上の能力・成果に関連しない人種・国籍・性別・思想等、個人の属性による差別を行わず、さまざまな国の人材、文化、考え方を受け入れる多様性を尊重します。

❸ 法律を遵守した人事施策を実行します。
人事施策の実行にあたっては、各国の法律を遵守します。

❹ 公平・公正・透明な人事制度を目指します。
人事施策の実行にあたっては、公平性・公正性・透明性に最大限配慮し、すべての働く人にとって納得感あるものを目指します。

❺ 職場環境の整備に努めます。
労働安全、労働衛生の観点から、心身ともに健康で安全に働くことのできる職場環境の整備に努めます。

❻ クラレグループの発展に貢献できる人材の雇用に努めます。
高い能力、知識、モラルと倫理観を持ち、クラレグループの発展に大きく貢献する、意欲ある人材を雇用します。

❼ 適材適所の配置を行います。
保有能力・知識、適性、能力開発の観点から、人材を適材適所に配置し、業績貢献と職務満足の極大化を目指します。

❽ 納得性の高い評価・処遇を行います。
評価者との対話を通じ、従事職務、発揮能力、成果、態度・行動を重視した、納得性ある評価・処遇を行います。

❾ 能力開発を支援します。
職務を通じた能力開発を重視し、そのための適切な支援を行います。

❿ 適切な情報開示、コミュニケーションの促進に努めます。
クラレグループで働くすべての人が、ミッション遂行へ向けて一体感を感じることができるように、適切な情報提供を行うとともに、直接、間接的な対話を行います。

社員に関する基本情報

社員数

2012年3月末現在

	全体	男性	女性
クラレグループ全体	6,776名	5,806名	970名
クラレ単体	2,962名	2,690名	272名

※グループは連結対象会社

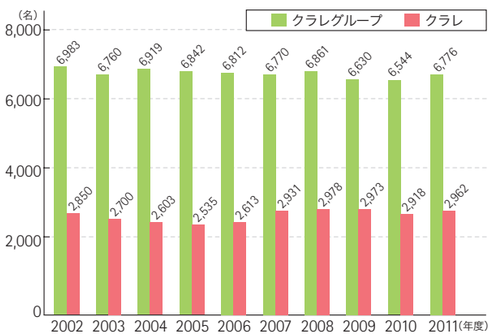
クラレ離職率

2011年度

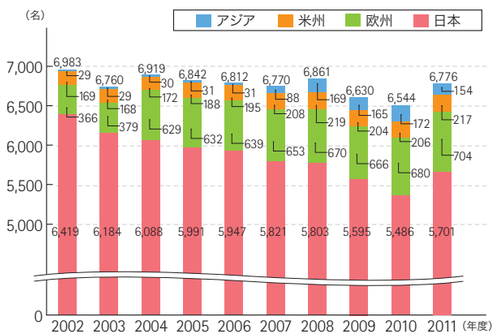
	退職者数	離職率
自己都合	26名	0.9%
定年	47名	1.6%

※離職率は、事由別退職者数／期初クラレ社員数

社員数の推移



地域別人員数の推移

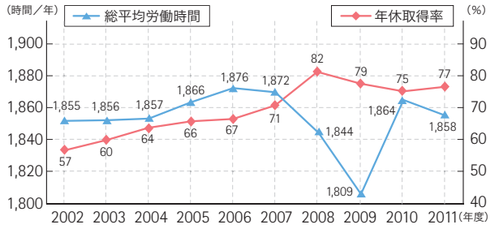


多様性とワーク・ライフ・バランス

勤務制度と平均労働時間

クラレでは、個人の仕事内容に応じた「裁量労働制」「事業場外みなし労働時間制」「変形労働時間制」など、柔軟な勤務制度を導入しています。また、ノー残業デーの実施や年休取得率の向上に取り組んでいます。

総平均労働時間と年休取得率の推移【クラレ】



育児・介護休職制度

ワーク・ライフ・バランスを支えるインフラとして社員の育児・介護をサポートする制度を導入しています。

育児休職は、保育園入園時期を考慮し、子どもが1歳到達後の4月末まで、もしくは1歳6ヵ月になるまでのいずれか長いほうの期間を取得できます。また、男性の育児参加を促進するため、男性の育児休職取得を推進しています。

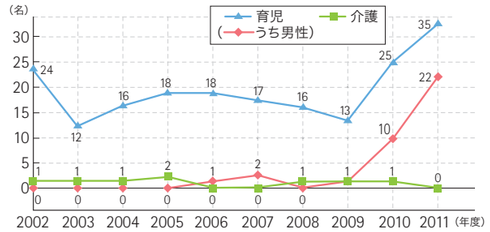
育児短時間勤務制度は、子どもが小学校3年修了するまでを対象としています。育児休職制度および育児短時間勤務制度は、出産した女性社員のほぼ全員が利用しています。

介護休職・介護短時間勤務は、それぞれ最長1年間、通算して最長2年間の取得が可能です。

クラレは次世代育成支援対策推進法に定められた行動計画を達成し、2007年3月、2009年3月の2回にわたり、厚生労働大臣から認定事業主と指定されました。現在、2009年度から2012年度までを計画期間とする第3期の行動計画に取り組んでいます。

くるみんマーク

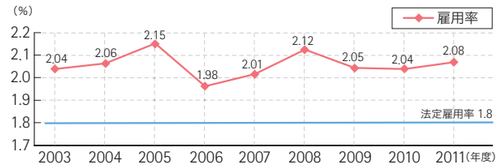
育児休職・介護休職者数【クラレ】



障害者雇用

法定雇用率(1.8%)を達成するだけでなく、地域の福祉施設と連携して知的障害者のための作業所を設立するなど、障害者の自立支援に取り組んでいます(P.20参照)。

障害者雇用率【クラレ】



その他の制度

(1)社会貢献のサポート

クラレでは、時効により消滅する年次有給休暇を積み立てた「特別休暇(最大60日／年)」を社会貢献活動のために取得できます。また、「社会貢献休職」制度を設け、社員の多様な社会貢献活動をサポートしています。

(2)リフレッシュ休暇

クラレでは、勤続表彰(25年)の受賞の際、記念品として旅行券を選択できます。旅行券を選択した場合は、記念旅行のために「特別休暇」を取得できます。

(3)ライフプランのサポート

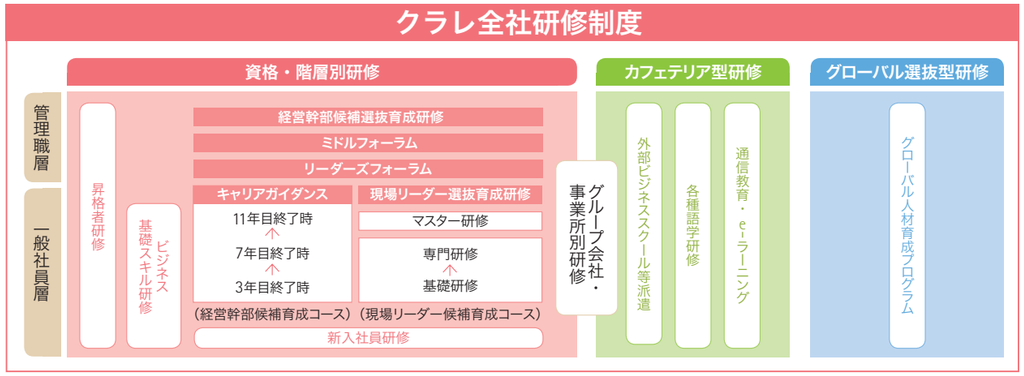
クラレでは、社員のライフステージに応じてライフプラン研修を行っています。また、自宅で将来の収入・支出のシミュレーションができるよう、クラレの給与・退職金制度にカスタマイズしたWEBツールを導入しています。

人材育成・評価

国内クラレグループでは、業務上必要な知識・スキルの獲得と社員の自律的なキャリア形成をサポートする全社研修制度を設けています。

全社研修は、正社員だけではなく、臨時パート社員、契約社員も必要性に応じて受講が可能であり、クラレ各事業所、各会社でも、独自の研修を企画・実施して、社員のスキル開発・キャリア形成にきめ細かく対応しています。

また、自己啓発による一定の公的資格の取得に対して、奨励金を支給する資格取得支援制度を設けています。

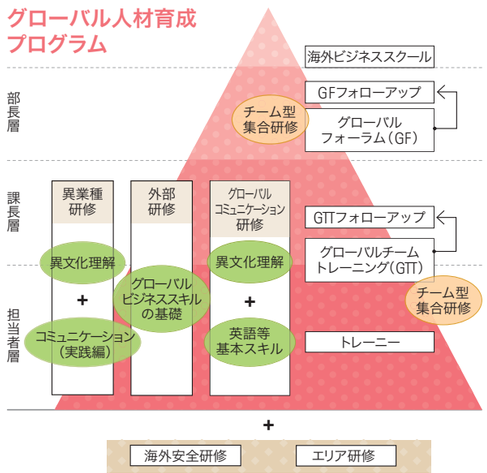


グローバル人材育成プログラム

クラレでは、グローバルに活躍できる人材を早期に育成するため、海外も含めたクラレグループ社員を対象とした「グローバル人材育成プログラム」を2007年に導入しました。

海外各拠点で集合研修を行う「グローバルフォーラム（GF）」「グローバルチームトレーニング（GTT）」、海外ビジネススクールの公開講座を受講する「欧米ビジネススクール」、国内・海外のグループ会社間で相互に研修派遣を行う「トレーニー」、外部機関（国内）の公開講座を利用した「外部研修」などを企画・実施し、2009年度までの3年間で国内外より約160名が参加しました。

2010年度からは、既存の研修プログラムに加えて、語学研修や異文化研修を中心とした「グローバルコミュニケーション研修」、他社と合同で研修を行う「異業種研修」、GFやGTTの過去受講者を対象とした「フォローアップ」などを企画・実施しており、2011年度までの2年間で約200名が受講しています。



公正・公平・透明な人事諸制度

クラレは、年功や属人的要素ではなく、職務遂行能力の向上や業績・役割、高い目標へのチャレンジを処遇に反映する人事制度を導入しています。

具体的には、管理職は役割・業績に応じて処遇する役割等級制度により、一般社員は能力伸長度・業績に応じて処遇する職能資格制度により、給与・賞与を決定しています。また、希望するキャリアパスに応じて育成コースを転換できる制度も取り入れています。

人事評価は上司と部下が面談の上で、職務や能力開発上の目標を設定し、実績を評価する目標管理制度を取り入れており、評価者研修も継続的に実施しています。

また、社員が仕事や職場生活についてどのように感じ、何を望んでいるかを把握し、制度・職場を改善していくために、定期的に従業員意識調査を実施しています。

労働衛生

クラレグループは心身ともに健康で安全に働くことのできる職場環境を整備するため「クラレ労働衛生基本方針」を制定しています。

クラレ労働衛生基本方針

「企業活動規準」に基づき、社員及び関係者の安全と健康の確保が企業活動の基本と認識し、健康で安全に働くことのできる職場環境の整備と健康づくり活動に取組みます。

メンタルヘルス

近年社会的に増大傾向にあるストレス性疾病を予防するメンタルヘルス対策に全社的に取り組んでいます。

（1）予防のための研修

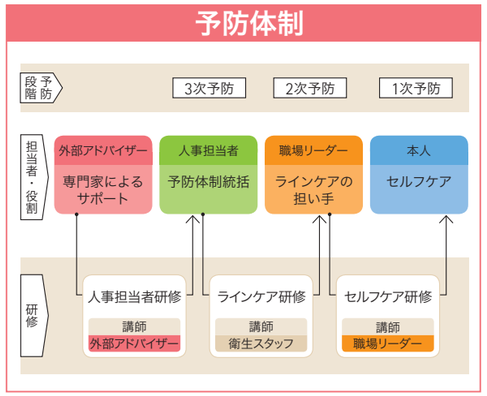
財団法人労働科学研究所に指導いただき、社員本人、職場の上司、人事担当者それぞれがメンタルヘルス対策の担当であるとの認識の下、セルフケア（社員自身による対処）・ラインケア（管理者・職場リーダーによる対応）の研修を継続して実施しています。

（2）心の相談室

クラレでは、社内、社外に心の相談室を設け、電話相談やカウンセリングが気軽に利用できる体制を整えています。また、長時間労働によるメンタル不全を防ぐために、長時間残業の対象者に対する産業医・保健スタッフによる健康チェックを実施しています。

（3）職場復帰への支援

長期休業者の段階的な職場復帰を支援するリハビリ出勤制度を設けています。



健康づくりの支援

クラレは社員の健康増進を図るため、各社員が日常の生活習慣改善の目標（運動量、食事量など）を定め、その達成に向け自主的に取り組む「ヘルスアップ作戦」を全社的に展開するなど健康づくり施策に取り組んでいます。

健康診断では、労働安全衛生法に定められている内容に加え、生活習慣病対策や婦人科健診などで対象年齢の拡大や項目の追加を実施しています。

労働組合との関係

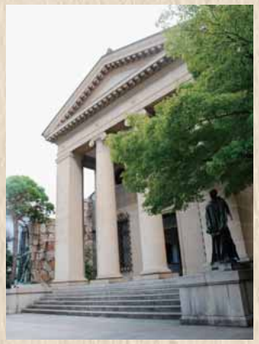
クラレにはクラレ労働組合、クラレグループに所属する労働組合によって組織されるクラレグループ労働組合連合会があります。労使協議会や安全衛生協議会などの場を通じて、さまざまな課題について真摯に協議を行い、労使で協力して取り組んでいます。

Column

創造への挑戦

～大原美術館、引き継がれる使命～

岡山県倉敷市の倉敷美観地区の一角、江戸時代の天領の名残である白壁が並ぶ町並みに、ギリシャ神殿風の建物がひときわ目立ちます。日本で最初の私立西洋美術館である大原美術館は、クラレの創業者・大原孫三郎によって建設されました。そして、2代目社長・大原總一郎により、『新しい創造活動への挑戦を支援・推進する』という大原美術館の方向性が形づくられました。いま、クラレは、大原美術館へのさまざまな後援を通じて、美術・芸術の領域における挑戦を支援しています。



大原美術館正面：
虎次郎が留学したゲント美術アカデミーにならった、イオニア式の列柱が特徴的なつくりとなっている。

◆日本の芸術界のため

孫三郎から絵画に対する熱意と実力を認められ、大原奨学生として支援を受けていた洋画家児島虎次郎※は「個人としての願いではなく、日本の芸術界のため」に美術作品の収集活動を孫三郎に願い出ます。1919年（大正8年）のことです。これに対し、西洋の美術作品を収集し公開することが、日本の社会においてどのような意味を持つことなのか、孫三郎は真剣に考え、翌年に許諾しました。虎次郎は、モネやマティスのアトリエを訪ね、『睡蓮』や『マティス嬢の肖像』など27点を購入します。倉敷市内の小学校を会場にこれらを公開すると、全国から多くの観客が押し寄せ、孫三郎は作品収集の意義を確信しました。その後も虎次郎は、欧州絵画だけでなく、中国、エジプト、ペルシャなどの古美術も積極的に収集を続けますが、1929年3月に47歳の若さで他界してしまいます。孫三郎は、虎次郎の早すぎる死を悼み、美術館建設を決意、1930年（昭和5年）に大原美術館は開館することとなりました。それは、虎次郎との友情によって育まれた、広く社会に意義あること、いまを生きる人々にとって意義あることを願うものでした。

クロード・モネ『睡蓮』

◆生きて成長する美術館

總一郎は、「美術館は生きて成長してゆくもの」という信念の下、所蔵作品の拡充と展示場の増設を行います。まず、孫三郎と虎次郎がはじめた西洋近代絵画のコレクションの拡充を図り、いわゆるエコール・ド・パリと称される1920年代のパリを拠点に活躍した画家たちの作品などを収集しました。また新しい美術の動向にも目を向け、ヨーロッパ、アメリカの同時代の作家たちの作品も集めていきます。加えて、これに相対する近代日本の絵画も積極的に収集していきます。それらは、美術の歴史を体系的に追うことよりも、新たな価値を創造しようとする作品という独自の視点で選び抜かれたものでした。

今でも大原美術館では年に4回、ギャラリーコンサートを行っている

また、總一郎は、1950年（昭和25年）の美術館創立20周年記念行事の際、パリ国立音楽院教授ラザール・レビィのピアノ演奏会などを開き、音楽と美術の融合という新しい取り組みを開始します。美術館を会場とするコンサートはいまでは珍しくありませんが、おそらく日本で最初の試みであったと思われます。總一郎は美術講座や講演会なども積極的に開催し、大原美術館を造形芸術に限らぬ文化全般の総合拠点として考えていたようです。－美術館が、展示物だけがかしこまってお澄ましする場ではなく、人々が語らい、そして他の芸術をも包容している－これが總一郎のめざした「生きて成長していく美術館」でありました。

◆企業としての成長

美術館の成長をめざしていた同じ時期、總一郎は企業経営者としても、新しい取り組みに挑んでいました。純国産合成繊維であるビニロンの工業化です。これは、「戦争に負けて自信を失っている日本人の心を奮い立たせる」という總一郎の確固たる使命感によるものでもあり、また同時に、外国からの技術導入によらず、日本独自の技術により、国産の原料から合成し得る、純国産の繊維をつくることでした。總一郎の経営思想の根底にある、「企業が得るべき利潤は『技術革新による利潤、社会的、国民経済的貢献に対する対価としての利潤』でなくてはならない」という考え方にあるように、技術革新や社会的、国民経済的貢献なくして企業は継続し得ないという思いでした。

この思想はその後も引き継がれ、クラレは〈エバール〉、イソプレンケミカル事業など独自技術にこだわった事業にいまもチャレンジし、企業としての成長を続けています。

◆挑戦する人を支援する

両者の社会貢献への姿勢についても、孫三郎、總一郎の思想が引き継がれています。

大原美術館では、休館日に、近隣の小学校の全校児童が一斉に来館し、学校が、まるごと美術館へ引っ越してきた状態をつくる「学校まるごと美術館」活動を実施しています。その中で、対話型鑑賞や文章表現への取り組み、模写への取り組み、美術館の機能を知る取り組みなどを行っています。

ARKO2012 上田暁子（無為村荘での制作現場）

また、児島虎次郎の旧アトリエ無為村荘を若手作家に提供、制作に活用してもらうプログラムのARKO（Artist in Residence Kurashiki, Ohara）や映像作品やパフォーマンスなどの表現形態に取り組む作家を招き、倉敷を題材にした作品制作を行うAM倉敷（Artist Meets Kurashiki）を進めています。これにより、新しい美術、芸術に挑戦する作家の支援を行っているのです。

クラレでは、1992年から化学の楽しさを知ってもらう活動として少年少女化学教室を開催しています。工場見学にも積極的に取り組み、子どもたちに、モノづくりの現場を肌で感じてもらっています。将来の技術革新を担う人材育成をめざし、クラレの事業所がある地域の子どもたちに、化学に接する機会を提供しています。あわせて、大原記念奨学金制度により、優秀な学生が学業に専念することを援助し、将来の技術革新を担う有為な人材の育成を行っています。

（上）学校まるごと美術館
（下）AM倉敷vol.10「渡辺おさむ OHARA-DECO」（作者と展示作品）

また、社会的に就労の機会が少ない知的障害者に働く場を提供する「クラレ作業所」の設立（1997年～）や、戦争により学ぶ機会が制限されているアフガニスタンの子どもたちに、使用済みランドセルと文具を送る活動の「ランドセルは海を越えて」（2004年～）など、独自の取り組みを、その地域で活動している人や組織と協同で考え、実行しています。

このように、両者は、孫三郎、總一郎の理念を色濃く受け継いでおり、「世のため人のため、他人（ひと）のやれないことをやる」という社会的責任に対する姿勢が根底の部分でつながっているのです。

大原美術館とクラレは「挑戦する人を支援する」という使命を共有しており、クラレは事業で挑戦を続ける一方で、美術館の挑戦を支援し、社会貢献を続けていきたいと考えています。

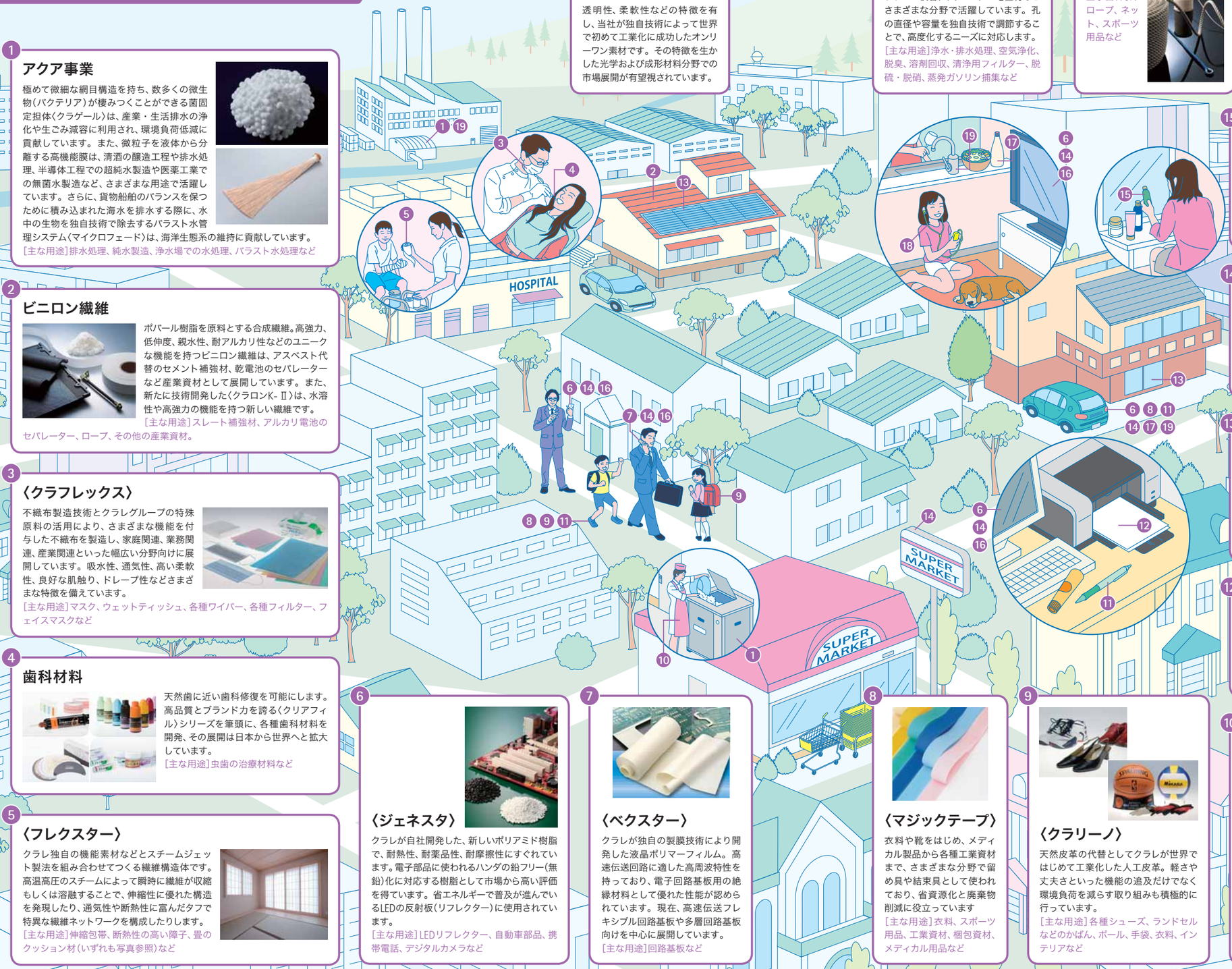
児島虎次郎

1881年～1929年。洋画家。岡山県生まれ。明るい彩調の印象主義画風で、作品には『ベゴニアの畠（はたけ）』『酒津（さかづ）の秋』『手鏡を持つ女』ほかがある。
東京美術学校西洋画科に学び、東京府主催勧業博覧会美術展にて『なさけの庭』が1等を受賞。その後、ベルギーのゲント美術アカデミーに留学、首席で卒業。日本人で初めてフランスのサロン・ド・ラ・ソシエテ・ナショナル・デ・ボザール正会員になる。エル・グレコの『受胎告知』をはじめ、モネ、マティス、アマン＝ジャン、ロダン、ゴーギャン、シャヴァンヌ、セガンティーニ、ミレー、フレデリックなどの作品を欧州各地で購入。現在の大原美術館の中核をなす。中国、エジプト、ペルシャなどの古美術も収集。フランス絵画を日本に紹介した功績により、オフィシエ・ド・ランストリュクション・ピュブリック勲章を贈られる。

児島の代表作『和服を着るベルギーの少女』

クラレグループの製品

クラレグループは、独自の技術で「世のため人のため」になる製品・サービスを生み出し、その価値を提供することで社会に貢献したいと考えています。変化し続ける社会からのニーズに応え、信頼される企業を目指しています。



1 アクア事業

極めて微細な網目構造を持ち、数多くの微生物(バクテリア)が棲みつくことができる菌固定担体〈クラゲール〉は、産業・生活排水の浄化や生ごみ減容に利用され、環境負荷低減に貢献しています。また、微粒子を液体から分離する高機能膜は、清酒の醸造工程や排水処理、半導体工程での超純水製造や医薬工業での無菌水製造など、さまざまな用途で活躍しています。さらに、貨物船舶のバランスを保つために積み込まれた海水を排水する際に、水中の生物を独自技術で除去するバラスト水管理システム〈マイクロフェード〉は、海洋生態系の維持に貢献しています。

[主な用途]排水処理、純水製造、浄水場での水処理、バラスト水処理など

2 ビニロン繊維

ポバール樹脂を原料とする合成繊維。高強力、低伸度、親水性、耐アルカリ性などのユニークな機能を持つビニロン繊維は、アスベスト代替のセメント補強材、乾電池のセパレーターなど産業資材として展開しています。また、新たに技術開発した〈クラロンK-Ⅱ〉は、水溶性や高強力の機能を持つ新しい繊維です。

[主な用途]スレート補強材、アルカリ電池のセパレーター、ロープ、その他の産業資材。

3 〈クラフレックス〉

不織布製造技術とクラレグループの特殊原料の活用により、さまざまな機能を付与した不織布を製造し、家庭関連、業務関連、産業関連といった幅広い分野向けに展開しています。吸水性、通気性、高い柔軟性、良好な肌触り、ドレープ性などさまざまな特徴を備えています。

[主な用途]マスク、ウェットティッシュ、各種ワイパー、各種フィルター、フェイスマスクなど

4 歯科材料

天然歯に近い歯科修復を可能にします。高品質とブランド力を誇る〈クリアフィル〉シリーズを筆頭に、各種歯科材料を開発、その展開は日本から世界へと拡大しています。

[主な用途]虫歯の治療材料など

5 〈フレクスター〉

クラレ独自の機能素材などとスチームジェット製法を組み合わせてつくる繊維構造体です。高温高圧のスチームによって瞬時に繊維が収縮もしくは溶融することで、伸縮性に優れた構造を発現したり、通気性や断熱性に富んだタフで特異な繊維ネットワークを構成したりします。

[主な用途]伸縮包帯、断熱性の高い障子、畳のクッション材(いずれも写真参照)など

6 〈ジェネスタ〉

クラレが自社開発した、新しいポリアミド樹脂で、耐熱性、耐薬品性、耐摩擦性にすぐれています。電子部品に使われるハンダの鉛フリー(無鉛)化に対応する樹脂として市場から高い評価を得ています。省エネルギーで普及が進んでいるLEDの反射板(リフレクター)に使用されています。

[主な用途]LEDリフレクター、自動車部品、携帯電話、デジタルカメラなど

7 〈ベクスター〉

クラレが独自の製膜技術により開発した液晶ポリマーフィルム。高速伝送回路に適した高周波特性を持っており、電子回路基板用の絶縁材料として優れた性能が認められています。現在、高速伝送フレキシブル回路基板や多層回路基板向けを中心に展開しています。

[主な用途]回路基板など

8 〈マジックテープ〉

衣料や靴をはじめ、メディカル製品から各種工業資材まで、さまざまな分野で留め具や結束具として使われており、省資源化と廃棄物削減に役立っています

[主な用途]衣料、スポーツ用品、工業資材、梱包資材、メディカル用品など

9 〈クラリーノ〉

天然皮革の代替としてクラレが世界ではじめて工業化した人工皮革。軽さや丈夫さといった機能の追及だけでなく環境負荷を減らす取り組みも積極的に行っています。

[主な用途]各種シューズ、ランドセルなどのかばん、ボール、手袋、衣料、インテリアなど

10 ポリエステル繊維

独自ポリマーの応用などにより特徴ある素材を開発し、独自の加工ノウハウも加え、ファッション衣料をはじめ、スポーツウエア、インナーウエア、ユニフォーム、産業資材分野までの広範なフィールドを手掛けています。また、環境にやさしい素材開発や自らが販売した製品のリサイクルも強化、よりいっそう環境に役立つ事業を展開しています。

[主な用途]衣料、寝具、産業資材など

11 〈セプトン〉

スチレン系エラストマー〈セプトン〉は、成形性、リサイクル性に優れており、自動車、家電、雑貨などに用いられる各種部材の高機能化ニーズとともに、幅広い分野での採用が拡大しています。

[主な用途]自動車部品、電機部品、筆記具、玩具、スポーツ用品など

12 ポバール

クラレが世界に先駆けて事業化した機能性樹脂。強い接着力や耐油・耐薬品性、界面活性を生かして、幅広い産業で使用されています。

[主な用途]紙・繊維加工材、接着剤、塩化ビニル樹脂の重合安定剤など

13 〈モビタール〉PVB樹脂／〈トロシフォル〉PVBフィルム

ポバールから生まれたPVB樹脂〈モビタール〉は、接着力と透明性に優れ、インクやファインセラミックスのバインダーなどに活躍しています。また、PVB樹脂を原料とするPVBフィルム〈トロシフォル〉は、合わせガラス用中間膜として建築用を中心に、自動車用にも使用されており、さらに太陽電池パネルの封止材としても用途が広がっています。

[主な用途]合わせガラス用中間膜、太陽光パネル向け封止材など

14 メタアクリル樹脂

透明性、耐候性、光沢性、耐擦傷性などの特徴を生かし、自動車、家電、雑貨などさまざまな分野に採用されています。近年では液晶ディスプレイ向け導光体などの光学部品分野で高いシェアを持っています。

[主な用途]液晶ディスプレイの導光体、自動車のランプカバー、看板、建材など

15 イソプレンケミカルズ

安全性が高く、取り扱い性にすぐれた洗浄剤〈ソルフィット〉をはじめ、独自の合成技術を生かした香料・化粧品原料、医薬・農薬中間体、イソプレン誘導体などを展開しています。

[主な用途]工業用基礎化学品、ポリウレタン樹脂原料、洗浄剤、香料・化粧品原料、医薬・農薬中間体など

16 ポバールフィルム

液晶ディスプレイの表示に欠かせない偏光板の中心となる素材で、偏光度と透過率の高さが特徴です。その他、産業用途でも使われています。

[主な用途]液晶テレビ、携帯電話のディスプレイなど

17 〈エバール〉

プラスチックの中で最高レベルのガスバリア性(気体を通さない性質)を持つ樹脂です。酸素を遮断し内容物の劣化を防ぐため、食品包装材として普及しています。また、ガソリンの揮発を防ぐため、自動車のガソリンタンクにも使用されています。さらに、大型冷蔵庫の真空断熱板にも採用され、省エネルギーに貢献するなど、用途を拡大しています。

[主な用途]食品包装材、自動車のガソリンタンク、防汚壁紙、冷蔵庫の真空断熱板など

18 〈ベクトラン〉

同一重量のスチールの約7倍の引張り強度に加え、耐磨耗性、耐屈曲疲労性、耐薬品性などの物性を備えており、航空宇宙、複合材、電子部品、ロープ、スポーツ用品などの用途で採用されています。

[主な用途]電子部品、航空宇宙、海洋ロープ、ネット、スポーツ用品など

19 〈クラレコール〉

ヤシ殻や石炭などを原料とする活性炭。水や空気の浄化をはじめ、蒸発ガソリンの吸着、キャパシタの電極材などさまざまな分野で活躍しています。孔の直径や容量を独自技術で調節することで、高度化するニーズに対応します。

[主な用途]浄水・排水処理、空気浄化、脱臭、溶剤回収、清浄用フィルター、脱硫・脱硝、蒸発ガソリン捕集など

NEW! 〈クラリティ〉アクリル系熱可塑性エラストマー

透明性、柔軟性などの特徴を有し、当社が独自技術によって世界で初めて工業化に成功したオンリーワン素材です。その特徴を生かした光学および成形材料分野での市場展開が有望視されています。

kuraray 株式会社 クラレ

東京本社　〒100-8115 東京都千代田区大手町1-1-3（大手センタービル）
大阪本社　〒530-8611 大阪市北区角田町8-1（梅田阪急ビル オフィスタワー）
代表　TEL：03-6701-1000　FAX：03-6701-1005

http://www.kuraray.co.jp/

レスポンシブル・ケア

古紙100%使用

2012年8月発行